

今年は1日で胃・肺・大腸がん検診と特定健診が受けられる！

町では、今年度から胃がん・肺がん・大腸がんの検診を特定健診と同日に行います。年に1回は検診を受けて、健康チェックを行いましょう。なお、5月下旬に対象者へ案内と受診券を送付しますので、ご確認ください。 問合せ先/役場健康福祉センター（電話 72-1852）

集団検診 ※予約不要。受診券と保険証、自己負担金を持参ください。

胃がん・肺がん・大腸がん検診 + 特定健診

	対象者	検査項目	自己負担金	持ち物
胃がん検診	40歳以上 (昭和55年4月1日より前に生まれた人)	バリウム検査 (胃エックス線撮影)	700円	がん受診券 健康手帳 (持っている人)
肺がん検診		胸部レントゲン	100円	
		喀痰(かくだん)検査	300円	
大腸がん検診		便潜血反応検査(2日法)	100円	
特定健診	国民健康保険加入者 後期高齢者医療保険加入者 他保険被扶養者	身体計測、検尿、血液検査、 血圧、腹囲、診察、心電図など (新)1日推定塩分摂取量※	500円	受診券 保険証 健康手帳

※1日推定塩分摂取量とは？ … どれだけ塩分を摂取しているのか簡易的に測定するもので、日ごろ取り組んでいる減塩対策の効果が数値で表示されます。尿検査の中で行うので身体への負担もありません。

注意事項

- ▼胃がん検診を受診される人は、検査の前日、午後10時以降から検査まで何も飲食しないでください(薬、牛乳、水、お茶、たばこ、アルコールなど一切取らないでください)。
- ▼特定健診を受診される人は、検査当日は飲食しないでください。ただし、水やお茶は可
- ▼協会けんぽなどの他保険被扶養者の人も特定健診を受診できます。保険者から届く受診券を会場まで持参ください。ただし、自己負担金は、他保険が受診券に定めている額になります。

【受付時間】午前8時30分～午前10時

実施日	会場	対象地区
6月3日(月)	山村開発センター	根雨1・3・4・6区、舟場
6月4日(火)	山村開発センター	根雨2区、津地、安原、下榎1・2区、野田
6月24日(月)	町公民館	黒坂5・7区、久住、下黒坂、根妻
6月25日(火)	町公民館	下・中・上上菅、井ノ原、諏訪、漆原、下福長、近江・畑、小河内、布瀬谷
6月28日(金)	山村開発センター	根雨5区、貝原、高尾、後谷、金持、板井原、上本郷、下本郷
7月1日(月)	山村開発センター	濁谷、門谷、秋縄、三土、榎市、小原、別所、三谷1・2区
7月9日(火)	町公民館	黒坂1・2・3・4・6区、下菅、中菅、中菅中央

個別検診 ※事前予約が必要です。

胃がん内視鏡検診 自己負担金：1,200円 / 検診を希望する人は、6月28日(金)までに、役場(江尾診療所/50歳以上の人のみ) 健康福祉センターへお申し込みください。

大腸がん検診の検査容器を役場窓口で受け取ることができます。

希望する人は、事前に役場健康福祉センターへご連絡ください。窓口で問診票に記入いただきます。

<大腸がん検査キット配布期間>

期間：6月3日(月)～7月12日(金)の平日 / 時間：午前8時30分～午後5時15分

持ち物：町から送付されたがん検診受診券、検診料金100円 ※集団がん検診の日時・時間帯での検査キットの配布は検診会場で行います。

日野病院 病院長 孝田 雅彦



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

「平成」が医学に何をもたらしたのか

今月は、令和元年最初の町報となります。そこで平成の時代に医学の大きな進歩は何であったのか、残された問題は何かを考えてみたいと思います。

私が考える平成の医学の大きな進歩は、①画像診断の発展、②遺伝子医療。特にヒトの全ゲノム解読、③臓器移植の普及だと思います。

コンピューターの進化が医学の進歩に大きく貢献

特に、画像診断と遺伝子医療の進歩はコン

ピューターサイエンスの発展によるところが大きく、コンピューターの高速化が高解像度の画像構成を可能としました。

今のCTは全身を1ミ³単位で、数秒でスキャンすることが出来ます。MRIではまだ時間はかかりませんが、組織の性状を数ミ³単位で評価することが出来ます。超音波検査では、血流や心臓の弁の動きが3D、つまり立体的にしかもリアルタイムにみる事が出来ます。

近い将来、日野病院でも最新の診療ができる日が

このような画像診断の進歩はがんの早期発見、心機能評価、脳血管病変の発見に大きく寄与しています。画像診断は今後もさらに高速・高解像度になり、形態だけでなく各臓器機能も視覚化できるようになると思います。

また、人工知能(AI)による診断はもう目の前まで来ています。CTやMRIを撮影すればAIが診断をしてくれます。特に、専門医がいない中

小の病院でも大病院と同じように診断が可能となります。日野病院にとっても待ち遠しいことです。

令和の時代、さらなる解明を期待したい遺伝子医療

ヒトの全ゲノム解析も高速のコンピューターを備えた次世代シーケンサーの開発によって予定よりも早く完成しました。全ゲノムが明らかとなり、いろいろな病気の原因が分かるかと期待されました。

しかし、残念ながら特殊な遺伝疾患の原因遺伝子は分かりましたが、高血圧や糖尿病といった患者の多い疾患に関しては治療に結びつくような遺伝子の発見は今のところありません。

令和の時代にはエピソードジェネティクス(遺伝子変化以外の後天的な遺伝子発現の制御)についての研究が重要になると考えられます。これもコンピューターの発達が複雑な遺伝子発現の変化を解明してくれるのではないかと思います。

iPS細胞研究が移植医療を大きく変える時がくる

最後に臓器移植は角膜、腎臓、肝臓、肺、心臓など発展、普及してきました。しかし、海外に比べれば日本の移植医療はそれほど一般的とはいえません。やはり、別の人から臓器をもらう、あるいは別の人におけるという行為は日本人にはすんなりと受け入れることはできないようです。

平成が始まったころ、人工臓器の開発に期待が寄せられていました。人工臓器ならば臓器移植のように他人の犠牲を考えなくてもいいからです。しかし、人工臓器の開発はこれまで遅々として進まなかったため、令和の時代に発展することを期待しましょう。

iPS細胞の研究が人工臓器の開発を大きく進めてくれるかもしれません。令和が終わるころには多くの人が老衰で天寿を全うできるようになればと願っています。